

平成20年度
「評議員会」報告書

平成21年3月

福井工業高等専門学校

まえがき

本校の評議員会は本校の教育研究目標計画、自己評価その他本校の運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また助言、勧告をいただくために設けられており、これまで、本校にとって大きな役割を果たしてきた。

現在の本校を取り巻く状況を見てみると、本校は大きなうねりの中にあると言える。平成20年12月には中央教育審議会から「高等専門学校教育の充実について」と題する答申が出された。この中では、科学技術創造立国を実現するには高等専門学校教育の一層の充実、強化を図ることが重要であると述べられている。そのためには、教育内容の充実、教育基盤の整備、教育の個性化、高度化を図ることが求められている。また高専の高度化、再編については平成21年10月から宮城、富山、香川、熊本の4地区において2つの高専が統合した新しい形の高専が誕生することになっている。

更に、今年度は国立高等専門学校55校が1つにまとまって独立行政法人国立高等専門学校機構になって5年目、つまり第1期中期目標計画期間の最終年度にあたる。本校においてもこの5年間で振り返るとともに新たな5年間を見通した中期計画の策定に向けて鋭意検討を進めている。

教育環境の整備については、平成20年夏より念願の本館全面改修工事に着手することができたが、その後国の補正予算において本校の改修経費が新たに認められたので、平成20年度から21年度にかけて機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟の全面改修工事を実施することが出来るようになった。今後ともより良い教育環境の確保に努めて参りたい。

こうした状況の中、平成21年2月に平成20年度評議員会を開催し、各評議員から多くの貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回、評議員各位からいただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、反芻しながら今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映されるよう努めたい。

福井工業高等専門学校長

池 田 大 祐

目 次

まえがき

I. 福井工業高等専門学校評議員会規則	1
II. 評議員会委員名簿	2
III. 評議員会日程	3
IV. 本校出席者名簿	4
V. 講評	6
VI. 参考資料	1 2

I. 福井工業高等専門学校評議員会規則

平成16年5月13日規則第21号
改正 平成16年 6月 3日規則第23号
平成19年 2月 1日規則第 1号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校評議員会（以下「評議員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 評議員会は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 評議員会は、10人以内の評議員で組織する。

- 2 評議員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。
- 3 評議員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。

(評議員会の開催)

第5条 評議員会は、校長が招集する。

- 2 評議員会は、年1回以上開催するものとする。
- 3 評議員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 評議員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 評議員会の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

Ⅱ. 評議員会出席者名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

中 川 英 之 福井大学副学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

西 口 郁 三 長岡技術科学大学副学長

(本校の所在する地域の教育関係者)

小 澤 正 信 鯖江市小中学校校長会会長
(鯖江中学校校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

笠 嶋 文 夫 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

野 村 一 榮 鯖江商工会議所会頭

(産業界の有識者)

本 島 正 勝 信越化学工業(株)磁性材料研究所長

(報道機関の有識者)

山 下 裕 己 (株)福井新聞社 論説副委員長

Ⅲ. 評議員会日程

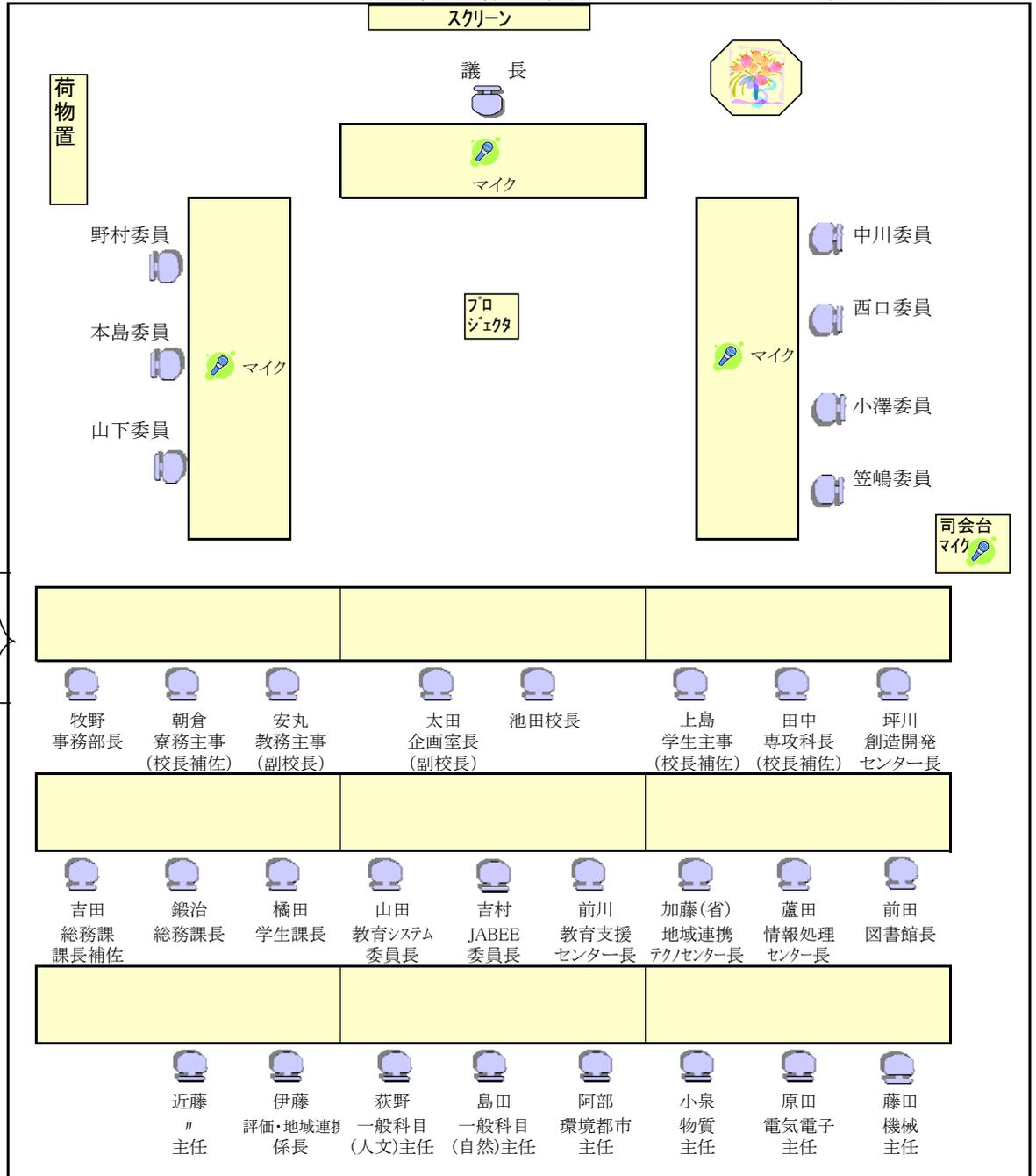
1. 日 時 平成21年2月12日(木) 13:30~16:35
2. 場 所 サンドーム福井 管理会議棟1階 研修室103・104
3. 日 程
 - 13:30 【開 会】 校長挨拶, 出席者の紹介, 議長選出
 - 13:45 【1. 本校の概要等】
本校の概要及び中期計画進捗状況について
……………企画室長, 教務・学生・寮務主事, 専攻科長
 - 14:45 — 休 憩 —
 - 15:00 【2. 全体討論・提言】
 - 15:45 — 休 憩 —
 - 16:00 【3. 講 評】
 - 16:30 【閉 会】 校長謝辞
4. 提示資料
 1. 自己点検・評価報告書
 2. 福井工業高等専門学校中期計画進捗状況
 3. 学校要覧 2008
 4. 学生便覧(平成20年度版)
 5. シラバス(本科, 専攻科)(平成20年度版)
 6. 専攻科パンフレット 2008
 7. 教員総覧 2008
 8. 福井高専の歩き方 — 2009 College Guide —
 9. JOINT 2008 —地域連携テクノセンター活動紹介誌—
 10. 平成19年度採択「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」
—起業家育成による実践的キャリア教育の推進— パンフレット
 11. 平成19年度採択「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
—社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ— パンフレット
 12. 図書館利用案内 2008
 13. What's “福井高専”?

IV. 本校出席者名簿

校 長	池 田 大 祐	
企画室長（副校長）	太 田 泰 雄	（一般科目教室教授）
教務主事（副校長）	安 丸 尚 樹	（機械工学科教授）
学生主事（校長補佐）	上 島 晃 智	（物質工学科教授）
寮務主事（校長補佐）	朝 倉 相 一	（一般科目教室教授）
専攻科長（校長補佐）	田 中 嘉津彦	（機械工学科教授）
機械工学科主任	藤 田 克 志	
電気電子工学科主任	原 田 望	
電子情報工学科主任	蘆 田 昇	
物質工学科主任	小 泉 貞 之	
環境都市工学科主任	阿 部 孝 弘	
一般科目教室（自然科学系）主任	島 田 茂	
一般科目教室（人文社会科学系）主任	荻 野 繁 春	
図 書 館 長	前 田 安 信	
創造教育開発センター長	坪 川 武 弘	
総合情報処理センター長	蘆 田 昇	
地域連携テクノセンター長	加 藤 省 三	
教育研究支援センター長	前 川 公 男	
J A B E E 委員会委員長	吉 村 忠 與	
教育システム評価委員会委員長	山 田 幹 雄	
事 務 部 長	牧 野 忠 志	
総 務 課 長	鍛 冶 肇	
学 生 課 長	橘 田 良 一	
総務課課長補佐	吉 田 文 男	
総務課評価・地域連携係長	伊 藤 獎	
総務課評価・地域連携係主任	近 藤 理 恵	

会場図

於: サンドーム福井 研修室103・104



V. 講評

[西口委員]

全体的には、よくやっておられると思います。ただ少しお願いしたいのは、一つは国立高専機構ができたのですが、高専がそれぞれ地域性というのですか、高専の特色を失わないでほしい。福井高専さんは地元とかデザインとか、いろいろ優れておられるので、それを伸ばしながら、かつ、他のところも伸ばしていただきたいと思います。機能性分化というのが、大学だけではなしに、これから高専にも要求されるのではないかと思います。

それから、ぜひ学生さん、先生方はインセンティブを上手にお付けになってやっていただいて、これからの競争社会というところを小さい頃から経験されたら良いと思いますので、難しいと思いますが、上手に良い意味の競争意識を持っていただいて頑張ってくださいたら非常に素晴らしいのではないかな、と思います。



長岡技術科学大学副学長
(評価及び産学官地域連携担当理事)
西口 育三 氏

[小澤委員]



鯖江市小中学校校長会会長(鯖江中学校校長)
小澤 正信 氏

教育とか研究分野、特に地域と連携されながらということ強く感じましたが、評議員となってみてですね、大変素晴らしい教育をされたと感じました。私達の立場から言うと生徒を送り出す側ですので、今日の説明の中で新しく入学した学生さんに宿泊オリエンテーションを実施するとか、担任副担任制をずっと5年生までやられるという、そのあたりは私どもにとってとてもありがたい制度だと思いますし、是非、このようなきめ細かな指導を続けていただきたいと思います。

昨年度は話題が出たということでございますが、学生のメンタルヘルスという面ですが、小中学生も最近はいろいろな考え方がいいますか、いろんな生徒もいまして、時々不適應を起こすとか、そういう生徒もいるわけですが、

そういった学生についてもかなり力を入れていただいていますので、これは是非一層の充実をしていただくと、生徒学生にとっても良いのではないかと思います。1人1人の学生が工学の勉学に励んで、立派な社会人として巣立って行く、あるいは進学するわけですが、今まではあまり重要視をしていなくても済んだ面かと思うのですが、最近は中学校でも随分力を入れておりますので、是非、お力添えを引き続きお願いしたいと思います。

それから、これは私どものこれからの思いですが、今日のいろいろなご説明の実績を拝見させていただいて、我々も高専さんへ生徒を送るときに、今まで以上に目的意識をしっかり持った生徒を送らねばいかんと思いますし、もう一点は、今回随分たくさんいろいろな資料を見せていただいて、改めてもう一度生徒たちに福井高専はこういう良さがあるのですよと、ぜひ話をしていきたいと思っている次第であります。大変取り組み全体として素晴らしい事を実践されていると感じました。

[笠嶋委員]

福井高専さんには長年産学連携で一緒に取り組ませていただいて、大変感謝しています。今日はいろいろお聞きして、先生方の頑張りに驚き、敬意を表したいと思っています。この少子化の時代に、受験者集めから就職先、進学先の指導・世話まで大変だなと思いました。その先生方の頑張りが学生に移っている、伝染しているのではないかと私は思います。

私はこの間産業フェアに参加して、福井高専の学生さんは非常にイキイキしていると感じました。それは先生方の頑張りが、担任制度もあって、どうも先生に似るなど。私は、それがあんなじゃないかと思っています。この間、読売新聞の記事で大変私は嬉しかったのですが、こういう事が福井県の高専として出るという事が、地域に密着した高専というところの、県民地域社会に根差したものづくり教育を行う地域と連携した産学官共同推進を図る、こういうところは非常に大事で、55の高専がありますが、その地域の特色を活かした県民連合性高専になるべきではないかと。もちろん地域の特色を活かした中で、そして日本に通用する、世界に通用する面もなければなりません。地域の特色を活かした高専というのを前面に押し出していただければなと思っています。これからも今の経営方針で頑張ってください、継続していただきたいと思っています。



福井県工業技術センター所長
笠嶋 文夫 氏

[野村委員]



鯖江商工会議所会頭
野村 一榮 氏

先程いろいろな意見が出ておりましたが、私はこの福井高専が、他の高専は分かりませんが、これほど地域に密着したと申しますか、地域との連携を挙げておられる高専は非常に地元にとってはありがたいと思います。常日頃から感謝をしています。そこで、先程申しましたように、鯖江、それから越前を含めてこの辺はものづくりの町でありますので、是非、地場産業を理解していただくという意味では先生方に地場産業の良さというものを是非理解してほしいなと。そして1人でも多くの生徒に地場の産業に興味を持っていただく。これは少し大袈裟かもしれませんが、鯖江は微細加工技術が日本一だと思っています。長岡にもいっぱいありますが、鯖江も長岡にまけない微細技術を持っていると思います。その意味では今後の高専の生徒が特許を取った、あるいは企業と共同で新しいものに挑戦するというそういった意味での起業家をめざすことも、我々地元としては非常に期待をしています。だから大企業に入るのも一つの方法かもしれませんが、地場の、ゼロからのスタートと言うと大袈裟かもしれませんが、そういう事も一つの今後の将来としては我々は期待しているところです。日本全国的にもこれからはどんどん起業家を育てるとというのが経済的な流れがあると思っていますので、どうかひとつよろしくお願ひ申し上げたいと思います。以上です。

[本島委員]

皆さんがおっしゃっているように、非常に一生懸命やっていたらということ、素晴らしいと思います。今からお話するのは別に今の批判ではなくて、実は日頃私どもの研究所にも毎年2、3名の大学、大学院、高専を含めて入っていますが、一番の問題点というのは、案外、注意されるとか意見を言われるのを嫌うんですね。相手からも、相手に言うのも嫌う。要するに自分で自分の事をやっているのはいい。だから非常にある意味で起業家としてはいいのですが、もう一つあまり言われたりするといわゆる鬱になったりする。要するにそういうトレーニングが少し



信越化学工業（株）磁性材料研究所長
本島 正勝 氏

足りない可能性があると思っています。文句を言われても耐える力というのはですか、変える必要はないのですが、そういうのに上手く対応する力が無いと起業家にはなかなか育たない、それから新しい事ができないだろうと思います。他の大学あるいは大学院でかなり素晴らしい成績を取っている人も、余所の人に言ったり、余所の研究員に口を出さない代わりに口を出してほしくないという、それを少しずつ慣れるような教育をぜひ、他の大学の先生も含めてお願いをしたいと思いますのでよろしくお願ひいたします。

[山下委員]

だいたい基本的な認識はみなさんと同じですが、先程も言いましたように、かなりいろいろなことを取り組んでおられて肩が痛くなるのではないかという気がするのですが、1、2点。

先程質問もしましたが、やはりこの「豊かな創造力とデザインマインド」というのは福井高専さんとしては特徴としていることだと思います。先程もご説明があったように丹南地域は伝統工芸のテクノバレーのような地域ですから、

こういう素質が必要なのだと思います。けれどもそれをより他の全国の高専とは違うという特徴を主張する為にも具体的な目標の中に感性デザイン力というのと、工学的なデザイン力の両方を少し推進するというような目標があったら

良いかという気がします。また、そういう所も中学生などそういうところにも訴えるし、当然地域での企業との話し合いの中でもそういう特徴を出していくのが高専の特徴的な一つになるのではないかと思います。

それと皆さんからもいろいろ話が出ていますが、5年間という期間の特徴ですね。それにはいろいろな意味でやる事が多くて大変なのですが、5年間の担任制などのいろいろな形で生徒さんを見るわけですから、人格、人間教育を当然基本に置いているのですが、それも一つの高専5年間の特徴にさせていただけるとありがたいと思います。

[中川委員]

委員皆様から講評をいただきました。いくつかの視点で公平に指摘されたと思いますが、まず、高専機構の中で各高専の位置づけに関して福井高専としても、その特徴をもう少し表に出して、将来起こってくるであろう機能分化というものに十分対応していけるような工夫をしていていただきたいということが一つ指摘できたと思います。

それからもう一つ、組織上の問題としまして、専攻科の現在の在籍者数と定員との関係を見



(株) 福井新聞社 論説副委員長
山下 裕己 氏

ますと、だいたい定員の1.5倍ぐらいが在籍している状態に今なっていると思います。今後本科生から専攻科へ進学を希望する人はますます増えてくるのではないかと。大学3年への編入学というルートもあるのですが、高専で専攻科を充実して、さらにその先の大学院の課程から大学へ移るとか、そういうことを基本的なものとして考えていった方が良いのではないかと思います。福井高専としまして、例えば20名の定員に対して今年度は45名の希望者があったという報告がありました、ある意味でのニーズ、学士レベルの教育に対するニーズを踏まえて定員問題はきちんと考えた方が良いのではないかと思います。それが一つ。

それと関連して、これは1高専の問題ではないのですが、学位認定問題が依然としてあると思います。学士課程という形での学位認

定をやっけいこうとすると、今度は高専の教員そのものの資格認定がそれに付いて関係してきますので、その辺の対応を考えて学位認定問題もぜひ取り組んでほしいと思います。

これから工学、工業技術者を育成していくにあたって、もう一つ皆さんのご意見の中で指摘された感性工学的な観点を工学の中に組み込んでいかなければいけないという点が出されました。この点は今高専だけではなくて大学の工学部においてもウィークポイントになっていて、デザイン、企画力を発揮するという創成教育が全国的に行われていますが、そのベースになる人間の感性を工学的に捉えるところが全体に弱くなっています。福井高専でも是非そのあたりを考えていつていただきたいということが指摘されたと思います。

もう一つはメンタルヘルスの問題ですが、昨年度もご指摘があって、いろいろ改善されているというところで、それでいいと思いますが、結局この問題は現在の社会情勢と関係しています。一つはいわゆる競争社会で競争にどう対応したらよいか分からなくなってしまい問題を起こしていると思います。これは生徒、学生だけの問題ではなく教員にも同じことが起こっていると。大学では教員にも同じことが起こっている。競争の概念、捉え方をもう少しきちんと考えておかないと、単に何かを比較して競争させているということだけを進めていると、メンタルヘルスの方で破たんするということがあると思います。生徒に対するメンタルヘルスケアの体制は出来上がってきているのですが、教員のメンタルヘルスも考えていく必要があるということです。

それから何よりも教員も学生も生き生きしている高専にしていくということが何よりも重要でしょう。そのためにも地域の産業や地域社会との連携を深めて、この地域でこの高専がある



福井大学副学長（教育・学生担当理事）

中川 英之 氏

という存在感などをぜひ発揮していただきたいと思います。

メンタルヘルスの問題とも関連してきますが、後の方で指摘された言葉は、耐える力とか人格とか人間力とかその辺が指摘されていますが、教育の中でこういう耐える力を付けていくためには、教員と生徒学生の間での一種の信頼関係がないと耐える力を鍛え上げることは非常に難しいことだと思います。高専の卒業生は相対的に優秀ですので、そのへんは十分に心掛けておられるとは思いますが、今後ますます弱い学生、生徒が入ってくることを考えますと、その対応も十分やっていく必要があるのではないかと思います。

【 総 括 】

全体として今日ご説明いただいたこと、それから自己点検評価に書かれていることを考えると、当高専としては委員からのご意見にもありましたように、非常に良く頑張っている高専であると思います。今後、新しい事を工夫してますます良い高専にしていっていただきたいと思います。最後に、こういう一種の外部評価をするにあたって観点として今国が求めているのは国際化、拠点化、連携という3つのキーワードを高等教育機関、高専・大学に国の方で求めています。これに十分対応できるような強い体質も、ぜひ作っていただきたいと思います。

VI. 参 考 資 料

平成21年2月12日

本校の概要説明

福井工業高等専門学校



福井工業高等専門学校の使命

1. 創造性豊かな人材の育成
2. 幅広い工学的素養、基礎能力及び応用能力の育成を目指す実践教育を行う
3. 高度に情報化した国際社会に対応する教育を行う
4. 環境を意識し、地域社会に根ざしたものづくり教育を行う
5. 地域と連携した産官学共同研究の推進を図る



学習・教育目標

福井高専の学習・教育目標



学習教育目標

A 倫理・ものづくり
B 工学・専門技術
C 創造・デザイン
D コミュニケーション
E 実践・論理的思考

・博等級学習教育目標

福井高専

・福井高専

学習・教育目標

A 地球の視点の技術者倫理を意図した、ものづくり・環境づくり、システム・デザイン能力の育成
B 幅広い工学的素養、得意とする専門技術の基礎能力および応用能力の育成
C 豊かな創造力とデザインマインドを持ち、常に自己を啓発し、新しい課題・分野に挑戦する能力の育成
D 高度に情報化した国際社会で必要なコミュニケーション基礎能力とプレゼンテーション能力の育成
E 体験に基づいて問題を発見し、解決策を企画・実行する実践的能力および論理的思考能力の総合的な育成

この学習・教育目標は、2004年度 JABEE 受審のために、JABEE認定基準2004年度版に基づき、『全ての専攻科学生が修了時に達成できる目標』(Outcomes)を定めています。



沿革

福井工業高等専門学校は、実践的開発型の技術者の養成を目的に昭和40年4月に設置された。実践性と創造性を併せ持つ高度技術者を養成すべく、5年一貫教育を行っている。

卒業生 本科5,503名、専攻科158名

学科 「機械工学科」「電気電子工学科」「電子情報工学科」「物質工学科」「環境都市工学科」

平成10年4月 専攻科を設置
「生産システム工学専攻」「環境システム工学専攻」



評価受審状況

(1) 機関別認証評価

平成17年 大学評価学位授与機構による機関別認証評価受審、指摘事項なしとの評価を受ける。

(2) JABEE (日本技術者教育認定機構)

平成16年 JABEE (日本技術者教育認定機構)により福井高専「環境生産システム工学」教育プログラム認定。平成18年中間審査認定。認定分野は、工学(融合複合・新領域)



国家レベル競争的資金採択状況

平成17年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「越のくにひとづくり・まちづくり」

期間 平成17年度～平成19年度

平成18年度経済産業省「高専等を活用した中小企業人材育成支援事業」

期間 平成18年度～平成20年度

平成17年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「起業家育成による実践的キャリア教育の推進」

期間 平成19年度～平成21年度

平成19年度文部科学省社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム「高専3Dものづくり塾設計講座」

期間 平成19年度～平成21年度

平成19年度文部科学省現代的教育ニーズプログラム「アントレプレナーサポートセンターによる実践的キャリア教育の推進」

期間 平成19年度～平成21年度



サンドームイベントの開催 平成20年8月



サンドームイベントにおける
学校紹介(約1万人参加)



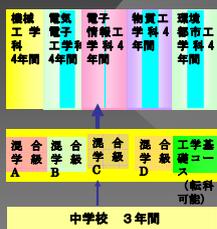
地域FM放送(たんなん夢ラジオ)による 学校紹介(毎週土、日曜日各1時間放送)



「高専ライブ」収録の様子



「工学基礎コース」の設置 平成17年度設置



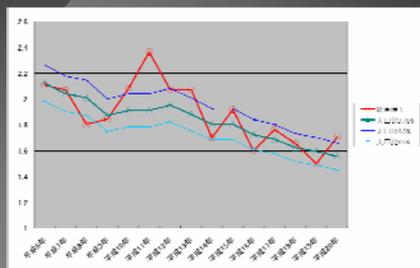
入学人数	機械工学科	電気電子工学科	電子情報工学科	物質工学科	環境都市工学科
推薦 約12名 学力試験20名 工学基礎 0名					



低学年における独創性・創造性を育む教育 (ものづくり科学、3単位)の導入



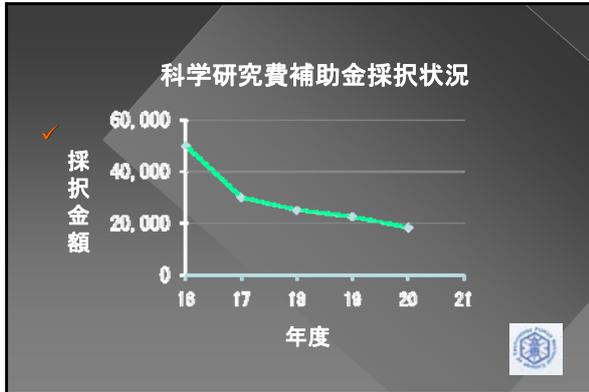
入学志願者の推移



平成20年度就職・進学状況

	卒業 予定 者数	就職 希望 者	進学予 定者	求人倍 率
本科	184	103	81	25.2
専攻科	30	20	10	37.2





地域に対する支援

1. 地域連携協定の締結(平成17年5月)

和紙産業との共同研究、インターンシップ

隣接する今立町は、平安時代より和紙製造では、全国屈指の産地となっており、「越前和紙」として有名である。本校では、和紙材料の保存方法と、廃液の微生物を用いた処理方法に関する共同研究を行っている。また、これらの研究を学生がインターンシップとして参加し、教育的にも成果を還元する。

眼鏡産業との共同研究、アイデア募集

鯖江市は世界で最も大きな眼鏡枠製造集積地帯となっており、眼鏡枠の国内生産額の90%以上近くを占め、生産額は1,000億円近くとなっている。本校では眼鏡に関するアイデアコンテストである、「めがわaku ワクコンテスト」を平成16年度より全国の生徒・学生対象に開催している。また、眼鏡枠材料に関する共同研究も行っている。

現代GP

現代GP(Good Practice)は、平成16年度に文部科学省が創設した「現代的な教育ニーズ取組支援プログラム」の略称です。平成19年度は、全国で600件の申請があり、119件が採択されました。

ふくい産業支援センター・福井県鉄工業協同組合連合会との連携

中小企業支援に関する包括的連携 平成18年7月



高専等を活用した 中小企業人材育成支援事業

人材育成講座
 アトムコース(原子力発電、放射線関連講座)
 マシンコース(機械工学基礎講座)
 計40名

創造性ある開発型の技術者育成

産官学の連携・共同研究

地域結集型共同研究、都市エリア型共同研究
 などに対する取り組み

起業家の育成

本校が起業家のために「アントレプレナーサポートセンター」
 を平成19年4月に開設。

起業による地域産業界の活性化を図る



中小企業庁平成15年度調査

ベンチャー企業の創業では高専卒は大学・大学院卒の1.5倍となっている。(平成19年3月7日読売新聞)

卒業年度	企業名	代表者	業種
平成11年	(株)jig.jp	福野泰介	情報系
平成11年	(有)オープンスフィア	花山 慎一	情報系
平成11年	(有)モノバイト	宮川栄一	情報系
平成11年	ノムジョイ(株)	野村勇樹	情報系
平成8年	(合)エムディエス	田辺一雄	電気電子系



現代 G.P. good practice

起業家育成による実践的キャリア教育の推進(平成19年度～平成21年度)



中学校からの入学

アントレプレナーサポートセンターにおける起業家育成教育の実施。起業家育成教育に他の学生が参加。

独創力・創造力を持つ実践的技術者

「頑張るICT高専学生応援プログラム」



初年度・・・起業家による講演会及び起業における実務スキルを習得する為のセミナープログラムの提供。次年度以降、実施形態や期間等について再考する



高専アントレプレナーシップ教育連携ネットワーク



- ★ 福井高専 アントレプレナーサポートセンター
 - ★ 興産高専 テクノショップ
 - ★ 東京高専 協会のICT高専 実践的キャリア教育
- ★ 導入教育
 ・ 企業家精神
 ・ 社会実習
 ・ 高専出身の起業家による講演会
 ・ G.P.の実施
- ★ 実践教育
 ・ 企業訪問実習
- ★ 以上の4つの教育活動が相互に連携し、高専 協会のアントレプレナーシップ教育ネットワークを構築する
- ★ 高専協会のアントレプレナーシップ教育ネットワークの構築
- ★ 高専協会のアントレプレナーシップ教育ネットワークの構築

文部科学省 社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム 平成19年度～平成21年度 「高専ものづくり塾3Dデザイン・設計講座」

企業との調整・受講者募集

福井工業高等専門学校、鯖江商工会議所、武生商工会議所、福井商工会議所、(財)ふくい産業支援センター、福井県鉄鋼協会、福井県眼鏡工業協会、福井県打ち刃物組合



未来教育型空間の創出

- ①全体が学生のための施設であり、社会で活躍できる技術者育成がより可能な施設とする。
- ②学生が自発的に活動できる空間を確保する。
- ③専攻科充実に沿った施設とする。
- ④卒業研究、特別研究など創造性教育に対応したスペースを十分確保する。
- ⑤耐震補強による安全・安心な施設の実現。
- ⑥バリアフリー対応の緊急整備。



教務関係



教務関係の取組(平成16～19年度)

- ✓ 平成16年度：独立行政法人化（国立高等専門学校機構）
- ✓ ：JABEE（日本技術者教育認定機構）受審
- ✓ 平成17年度：工学基礎コース制度開始
1年に創成科目「ものづくり科学」と混合学級の導入
- ✓ ：大学評価・学位授与機構機関別認証評価受審
- ✓ 平成18年度：100分授業開始・学修単位の導入
- ✓ ：JABEE中間審査受審
- ✓ ：学習到達度試験開始
- ✓ 平成19年度：創造教育開発センターの設置



JABEE・認証評価受審に伴う教育制度の改正

- ✓ 基本理念、学習・教育目標の制定
- ✓ アドミッションポリシーの制定
- ✓ シラバスの充実
- ✓ エビデンス(成績評価資料)の保管
- ✓ 学生アンケート(授業・教育環境)等の定期的実施
- ✓ FD活動の充実、公開授業の実施
- ✓ 教育点検システムの確立
- ✓ 90分から100分授業体制へ移行



福井高専の教育の特長

- ① 本科(5年間、準学士課程)：学年制(担任制)
1年：混合学級
2～5年：5学科に分かれて理工系基礎及び体験型教育
- ② 専攻科(2年間、学士課程)：単位制
融合・複合型カリキュラム(2専攻)
修了時に修習技術者の資格(技術士1次試験免除)
- ③ ものづくり・環境づくり教育の推進
創造性を育む体験重視型カリキュラムが充実
ものづくりコンテストの奨励



本科の教育の特長

- ✓ くさび形教育（専門科目が学年と共に増加）
- ✓ 担任がきめ細やかに指導
- ✓ 体験型科目（実験・実習・演習・創成科目）や情報処理教育が充実
- ✓ 1年：混合学級（1クラスは工学基礎コース）
創成科目「ものづくり科学」の導入
- ✓ 2～5年：5学科に分かれて工学と理系基礎教育
最も自信のある工学分野の実践力を身につける。

M 機械工学科 E 電気電子工学科 EI 電子情報工学科
C 物質工学科 B 環境都市工学科



工学基礎コースと「ものづくり科学」



- ✓ 志望学科が絞りきれない人のために設置(H17年度)。
- ✓ 各学科8名が定員で、1年時に同コースだけのクラスができる。他の4クラスも混合学級。
- ✓ 2年進級時に本人の志望と成績により転科が可能。

低学年における創造性を育む教育
(ものづくり科学、3単位)の導入

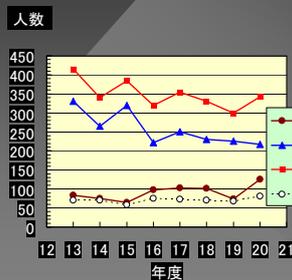


教務関係の取組(平成20年度)

- ✓ 50分-7限体制への移行開始
低学年等での50分授業実施
- ✓ 校舎改修工事への対応
代替13教室体制の検討、年間行事予定の検討、
新教室内容検討
- ✓ 学習到達度試験(数学・物理)実施



入試倍率の推移と新たな対策



- ✓ 入試に関する1年生へのアンケート調査
- ✓ 推薦基準の検討
- ✓ 入試会場の新設
福井市会場(アオッサ)
- ✓ 配布物(CD、パンフ)の改訂
- ✓ 入試関連行事の見直しと改善



入試行事①: あじさいオープンキャンパス

6月21日(土); 公開授業、学校説明会、ロボコン実演
参加者: 計446名(生徒263名)、中学: 56校



福井高专で夢づくり!

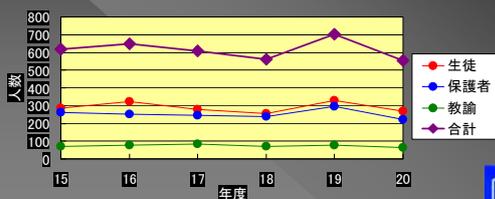
入試行事②: オープンキャンパス(体験入学)

8月1日(金); 学科紹介・体験コーナー、交流コーナー
参加者: 計569名(生徒395名)、中学: 80校
オープンキャンパス(6月+8月); 計1015名(生徒658名)



入試行事③: 入試説明会

10~11月 福井県内11回、滋賀県内6回実施
その他: 各中学校主催の説明会に参加(10校)
参加者: 計556名(生徒268名; 昨年より61名減)



留学生受け入れ状況

3年: マレーシア1名、カンボジア1名、インドネシア1名
4年: マレーシア2名、ラオス1名、バングラディッシュ1名
5年: マレーシア1名



厚生補導関係



学生と担任制度

- ✓ 学生生活全般の指導(友人関係、生活行動の把握(欠課、欠席の点検)、各種届け出指導等)
- ✓ 学業成績、悩み等についての個別指導
- ✓ 特別活動の企画・実施(1~3年)
- ✓ 学校行事の指導・企画・引率
オリエンテーション(1年)、遠足(1, 4, 5年)、校外研修(2年)、工場見学旅行(3年)、校外実習(4年)、卒業研究発表会(5年)
- ✓ 進路(就職と進学)指導(5年)
- ✓ 保護者懇談会の実施(1~5年)



中期計画の中の担任制度

- ✓ 担任・副担任制度の継続
→ 学生に対するきめ細やかな対応(特に低学年)
校門指導等のふれあう機会を増やした(H16年度開始)
- ✓ 学年主任制度の導入
→ 進路指導の強化; 高学年
(H16年度開始、進路指導室との連携)
→ 混合学級への対応; 低学年
(試験導入を検討中)



学校行事①: 様々な体験活動の継続

- ✓ 新入生オリエンテーションキャンプ(1年)
(能登に向き1泊2日で催行)
- ✓ 遠足(1, 4, 5年)、校外研修(2年)、工場見学旅行(3年)、校外実習(4年)、卒業研究発表会(5年)



親交を深めあった新入生オリエンテーション



学校行事②: 学生会活動の奨励

- ✓ 体育祭(5月)
- ✓ 弁論大会(10月)
- ✓ 高専祭(10月)



課外活動①: クラブ活動の奨励

- ✓ のびのびしたクラブ活動(受験戦争なし)
- ・ クラブ数: 体育系20サークル、文化系・同好会21サークル
- ・ 学生加入数: 約700名、顧問教員数: 延べ70名
- ・ H20年度北陸地区高専体育大会
優勝(団体): 女子バレーボール、男子テニス、野球
- ・ H20年度全国高専体育大会:
野球2位、走り高跳び2位、男子テニスシングルス2位
- 体育系部: 陸上、水泳、野球、サッカー、ラグビー、バレーボール、バスケットボール、テニス、バドミントン、ソフトテニス、卓球、ハンドボール、剣道、柔道、ソフトボール、空手、少林寺拳法、合気道
- 文化系部: プラスバンド、モダンミュージック、写真、囲碁・将棋、英語、エレクトロメイキング等



課外活動②：コンテストの奨励と支援

✓ものづくり関連コンテストの奨励

→ロボコン（技術賞・全国大会出場）、プロコン（敢闘賞）、デザコン（優秀賞）、WRO世界大会出場、ふくいビジネスプランコンテスト、歯磨きロボットコンテスト等



奇抜なアイデアで会場を沸かせました。



課外活動③：夢づくり工房プロジェクト

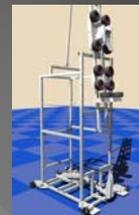
✓夢づくり工房（ドリームラボ）（H17-18年度設置）

ロボコン、Robo-ONE（2足歩行ロボット）、
知能機械演習、実験、卒研等

✓ロボコン用ホームページ の開設（H16年10月）

：過去の戦歴、
ロボットのデモ活動、
3Dアニメーション、
QTVR等

中学生へのアピールとして
入試対策にも寄与



卒業生の進路：4年目の進路指導委員会

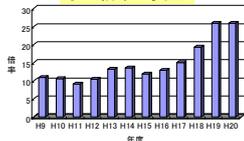
✓高い求人倍率（平成20年度：
26倍）で安定した就職・進学
状況を確認

卒業生の進路（平成20年度）



内、県内就職が約4割

求人倍率の変化



中期計画：安全管理の強化

✓クラブ活動の安全管理を主とした指導マニュアルの改訂
十年間練習計画の作成（H16年4月より）

✓課外活動危険箇所調査と安全面を重視した環境の整備
H17・18年 AED（自動体外式除細動器）を学内2箇所に設置
野球フェンス改修、体育館・武道場の耐震改修工事等

✓クラブ活動の安全管理に関する講習

- H16年7月：
「クラブ活動における安全管理を中心
とした指導について」
- H17年～20年：
「AEDを用いた救急救命法実習」



AED実習風景



麻疹（はしか）対策の充実

麻疹対応措置の結果（11末現在）

抗体陰性者数（3年を除く）	436
ワクチン接種者（自主）	37
ワクチン接種者（補助）	363
3年の未接種者学生数	15
全学生数	1038

麻疹耐性率（学生）	95.1%
（組織）	95.6%

3年の接種率

対象者	:194（内県内180）
既接種者	:179（内県内165）
ワクチン接種率	学生全体:92.3%
	県内学生:91.7% 県外学生:100%



中期計画：メンタルヘルス関連

✓学生指導担当職員研究会の開催

- H17年7月：「高専生のメンタルヘルス」
- H18年7月：「青年期理解と対応」
- H19年7月：「度発達障害の理解と対応」
- H20年1月：「メンタルヘルス講演会 ～命の大切さ～」
- H20年7月：「思春期・青年期の依存行動について」
- H20年7月：学生相談室の現状討論会（相談室関係教職員）

✓メンタルヘルス関連の充実

- H16年より毎年実施：学生相談関連アンケート（全学生）
- H19年1月：いじめに関するアンケート（1～3年）
- H19年度より外部の専門カウンセラーによる相談を週2回に拡充
- H20年度より学生相談室関係教職員の増強（10名体制）

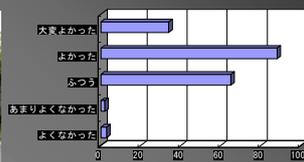
✓報告書の作成

- H16年度開始：学生指導担当職員研究会・ボランティア活動報告書の発行



中期計画：ボランティア関連

- ✓ ボランティア活動の奨励
→ H20年10月：第5回クリーン大作戦（192名参加）



よかった理由：心がきれいになった、地域の人とふれあえたこと



5年一貫教育の利点を生かした 人格形成の人間教育を実践

- * 担任制度の充実
- * クラブ活動・学生会活動への積極参加
- * 各種コンテストへの参加奨励
- * メンタルヘルス・安全管理の強化
- * ボランティア活動への自主的参加
- * アントレプレナーサポートセンターを
中心にした、起業家精神の涵養



寮務関係



福井高専学寮

学寮は「青武寮」と称し、南寮・北寮・東寮の3棟からなり、東寮には女子寮が併設されている。定員は240名である。

遠隔地からの入学生に修学の便を与えると同時に、共同生活を通してお互いに敬愛啓発し、人間形成を図るという目的で設置されていて、教員が交替で寮監として泊り、寮生との触れ合いを大切にする教育寮として位置付けられている。



管理運営組織

- 寮務主事
- 学寮運営委員会(10名)
 - 寮務主事団(7名)
 - 学生課寮務係(1名)
 - 寮監(平日2名)
 - 寮生会(25名)



寮生の出身地

福井県	滋賀県	岐阜県 石川県 など	マレーシア、パングラデシュ、ラオス、カンボジア、インドネシア
約140名	約80名	数名	8名(男子)

男子	女子
約190名	約50名



学寮の施設—1—

南寮・・・男子75名(1階は留学生)(全室個室)



留学生(20年度8名)

調理室
シャワールーム
インターネット
交流室(空調完備)



学寮の施設—2—

北寮・・・男子75名(30名は2人部屋)
東寮・・・男子39名・女子51名(全室個室)



北寮(男子寮)



東寮(3・4階女子寮)



学寮の施設—3—

付属施設
《管理事務室・寮監室・食堂・浴室》



食堂(空調完備)



浴室



学寮の施設—4—



インターネット環境



リフレッシュルーム



手作りゴミステーション



学習室



学寮運営の改善

- ①安全性の充実
- ②寮生・保護者・教職員の協力体制の充実
- ③より緻密な寮生指導



①安全性の充実

防犯カメラの設置(平成18年)
各棟玄関



カード鍵の導入(平成18年)
女子共通部分

門限厳守の指導

危機管理マニュアル作成(感染症対策)



②寮生・保護者・教職員の協力体制

- ・寮生との意見交換会の開催(6月・11月)
- ・寮生保護者面談会(7月)
総会・個別面談
- ・地域ボランティア(6月)



③より緻密な寮生指導

- ・文化的活動の支援 文集「日野」32号
- ・留学生との懇談会(12月) 学生課主催
- ・文化講演会(11月) テーブルマナー講習会(1月)



寮生の意識向上

・他高専との交流

- (1) 全国寮生連合会への参加（阿南高専 10月）
 - ・学生4名派遣
 - ・全国規模で高専寮が変化しつつある
- (2) 豊田高専視察（平成20年1月）
石川高専と共に見学

・役員会・区長会の充実（区長は各階の責任者）

- (1) 月例会
 - ・寮務主事（団）からの報告
 - ・区長からの報告
- (2) 生活上の諸問題の早期解決



入寮率（H20. 5. 1 現在）

- ・富山工業高専 65.1 %
- ・石川工業高専 87.9 %
- ・福井工業高専 97.1 %
- ・舞鶴工業高専 95.0 %
- ・岐阜工業高専 87.4 %
- ・長野工業高専 98.8 %

入寮率＝入寮者数/定員・100



これからの課題

- ・安心、安全、衛生的な住環境の整備
- ・心の健康（メンタルケアの導入）
学生相談室・保健室との連携
- ・充実した学園生活
課外活動時間・学習時間の確保
- ・寮生への更なる生活支援（寮母など）
- ・女子寮生への生活支援（女子寮の整備）



専攻科



専攻科制度

本科の上に**2年制**の教育課程
大学評価・学位授与機構の審査により**学士号**取得

定員（1学年）

生産システム工学専攻（12名）
環境システム工学専攻（8名） 計20名

修了要件

62単位以上の修得
「環境生産システム工学」の学習教育目標をすべて達成
(JABEEプログラム)



学生数

在籍者数

1年生：32名 2年生：30名 計62名

修了者数

H19：28名（JABEE修了：28名）

志願者数

H18：38名 H19：41名 H20：45名

入学予定数 30名



就職・進学

求人倍率：40倍

就職先（県内就職：11名）

フクビ化学、日華化学、福井市職員、ミツヤ、
パナソニックエレクトロニクスデバイス 等

進学先

金沢大学大学院（3）、奈良先端科学技術大学院大学（2）、
東京大学大学院、名古屋大学大学院 等



技術者教育

「環境生産システム工学」の教育プログラム
(JABEE認定プログラム)

11科目で各2~3回の授業の非常勤講師
(技術士、弁理士、NPO理事長、OBの起業家等)

北陸技術交流テクノフェアの参加

約1ヶ月のインターンシップ（1年生全員）

技術シーズ発表会



特別研究の成果

丹南産業フェアで技術シーズ発表会（サンドーム福井）
(共催：鯖江商工会議所)

優秀発表学生表彰

1. 鯖江商工会議所会頭賞
2. 武生商工会議所会頭賞
3. 福井工業高等専門学校長賞



学会での表彰

- ・ Award for Best Poster Presentation (ICTP2008, H20.9)
- ・ ASET Good Student Award (15th ASET, H20.10)



専攻科生の海外活動支援制度

目的

国際的視野を持った人材を育成するため、専攻科生の海外活動を支援する。

条件

- ・ 海外での活動が、学術的または人道的活動であること
- ・ 心身ともに健康で学業が優れていること
- ・ 英語に関して所定の基準を満たしていること
- ・ 海外活動を行う上で必要な能力を有していること

実績

1名が韓国で開催された国際会議(ICTP2008)に参加。ポスター発表部の最高賞“Award for Best Poster Presentation”を受賞。



教育研究協定

・ 福井大学大学院

ファイバーアミニティ工学専攻と学術協定締結

(H18. 2)

・ 北陸先端科学技術大学院大学

同上大学と推薦入学覚書を締結 (H19. 4)

専攻科生による研究室訪問 (H20. 6)



専攻科と本科の連携

総合試験（数学、物理等）の本科生の受験

TOEIC-IPテスト（年5回）の本科生の受験

TOEICスコア400点以上で入学試験（学力選抜）
英語試験を免除



厚生・補導・課外活動

TOEIC高得点者を表彰

出前授業、オープンキャンパス、
サイエンスフェア等への参加

専攻科生との懇談会



平成 20 年度「評議員会」報告書

発行 福井工業高等専門学校

〒916-8507 福井県鯖江市下司町

電話 0778-62-1111

FAX 0778-62-2597
